

読書の秋に…「読書旬間」特集



天龍小学校では、本に親しんでもらおうと春と秋の年2回「読書旬間」を行っています。

子どもたちによる本の紹介や読み聞かせなどの定番イベントに加え、毎回楽しい企画が行われています。今回の企画の一つに「図書館支援の宮澤さんによるセレクト本」がありました。今回の学校だよりは、子どもたちが「おすすめ本」として児童集会で紹介した本の中から、宮澤さんによるセレクト本にスポットを当て紹介したいと思います。



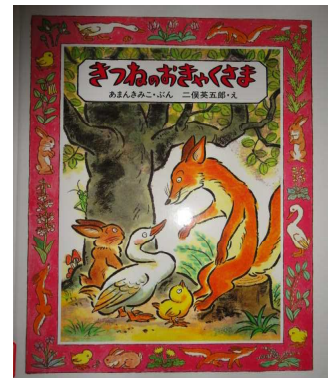
宮澤（駒井）花子さん

子どもたちに3冊をセレクトしたポイント

まずはじめに、できる限り秋に入った新着図書からセレクトすることを前提に考えました。そして1、2年生は純粋に物語を楽しめるもの、3年生はそこから一歩進んで読み終えて自分自身と重ねたり、なにか心に残るもの、4、6年生は普段まったく手に取らないジャンルや一見自分の生活と関わりの無いようなジャンルのものを敢えて一冊入れることにしました。本の中から、自分、さらに自分以外の誰かや社会、知らない世界へと広がっていくといいなという思いからです。

○わたしのおすすめ本 1年 宮澤 ゆうな

私が紹介する本は、『きつねのおきゃくさま』です。この本のおすすめのところは、「親切なふりをしたきつねが、ひよことあひるとうさぎを神様みたいに育てた」と書かれているところです。なぜおすすめかというと、きつねもひよこもあひるもうさぎもみんな笑っていて、「最初はやせていた3匹がまるまる太ってきたぜ」と、きつねが言うところがおもしろかったからです。ある日おかみが山から下りてきます。この後どうなるのでしょうか。みなさんもぜひ読んでみてください。



1年生は普通の授業等で見ていても、手に取る大半が絵本です。なので今回は絵本を中心に、一冊は幼年童話をセレクトすることで読み物へと世界が広がるきっかけになるといいなと思いました。また、事前のアンケートからいろいろなジャンルに興味を持っていることがわかったので、季節にあわせて、また身近な題材である、どんぐりの本をセレクトしました。きつねのおきゃくさまは絵本ですがストーリー性、メッセージ性があり、ゆうなさんは動物の本が好きでよく読んでいたので、セレクトしました。



○ぼくのおすすめ本 3年 坂田 歩万

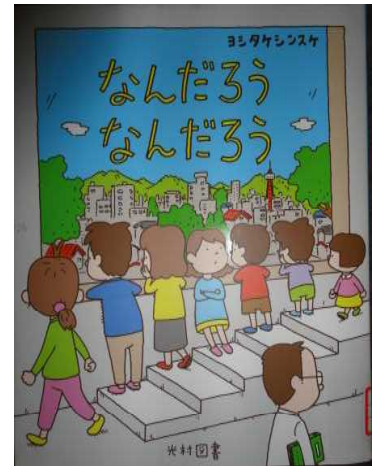
ぼくは読書旬間中にたくさん本を読みました。その中で、ぼくがおすすめする本は『けんかにかんぱい!』です。この本は花子さんからすすめてもらった本です。この本をおすすめする理由は、話の内容がおもしろいからです。この本に出てくる人たちは、けんかをしますがけんかをする中で学ぶことがあります。「けんかするほど仲がよい」ということわざがありますが、この本を読んで本当にそのとおりだと感じました。1、2年生の人たちも読める内容なので、ぜひ借りて読んでください。



この物語には3年生が登場するので、この本は歩万さんが煌晟さんに読んでもらえたらと思いました。読み終えて、なにか自分と重ねて考えたり、心に残るものがあるといいなと思います、少しメッセージ性のある本を選びました。天龍の子どもたちはみんなとても優しく、とくみあってけんかをするような場面は目にしたことはありません。天龍に来て、みんなおとなしくて落ち着いているので、わたしが小学生のころの同学年の男の子たちとは全然違って驚いたのを覚えています。それがいい悪いということではなく、でもけんかしてむきだしの気持ちでぶつかりあうのも悪いものじゃないなあと感じてもらえたら、とそんなことを考えながらこの本を選びました。

○ぼくのおすすめ本 6年 遠山 蔵之助

ぼくが紹介する本は、宮澤先生からおすすめしてもらったヨシタケシンスケさんの『なんだろう、なんだろう』という本です。この本は、人がいろいろなことを考えて不思議に思うことを書いてある本です。ぼくが一番印象に残ったところは、「うそってなんだろう」です。普通はうそをつくとそのうそをついたことがばれたりばれなかったりするけれど、ヨシタケシンスケさんの考えは、「ついていいうそとダメなうそがあるのかな？」とか、「親が子どものためにつくうそはいいのかな？」とか「おもしろいうそならいいのかな？」「ダメなうそほどすぐにばれる」「ダメなうそをつきすぎると人が信じてくれなくなる」などがあります。他にもたくさんの「なんだろう？」があるのでぜひ読んでみてください。



『なんだろうなんだろう』は、読者に「考えさせる」絵本だと思いました。絵本のように読みやすく、イラストと合わせてテンポよく読み進めながら、自分の当たり前を立ち止まって考え直してみるような「深く考える」という体験をしてもらえるといいなという願いをこめて選びました。蔵之助さんは、ふとしたときの周りを気遣うひとことや周りをよく見ているなど感じる場面があり、それはきっと本人の無意識のうちの優しさがそうさせているのかなと思います。絵本に登場するいろいろな「なんだろう」に対して、自分はどう考えるかなと立ち止まって考えることで、自分が大切にしていることや、自分の良いところを自覚出来たり、「自分を知る」ことにつながるいいなと考えました。またそうして自分の中で考えを巡らせたり、それによって自分を知っていくことの面白さ、楽しさを感じてもらえたら嬉しいな、と思いこの本を選びました。

現在、書籍はほとんどがデジタル化され、持ち運びが便利になったり、自分が読みたいと思ったタイミングでいつでもどこにいても読めるようになったりと変化しています。ですが、実は実際に手に取って「紙の本を読む（あるいはその場で読んでもらう）」という活動は、自分のペースで、時には物語を行き来しながら、時には情景を思い浮かべながら読むことで、「読む」という行為に加え、文字や音声と絵や写真とをすりあわせたり次のページを予測したり語彙の意味を考えたり…と、読み深めるために必要な、さまざまな力がつくとされています。

そんな中、今回宮澤さんにセレクト本を紹介してもらったことで、子どもたちは、新しく図書館に入った本の中から、自分に合った新しい本との出会いのチャンスをいただきました。おすすめ本に、宮澤さんから選んでもらった本を紹介している子どもたちがたくさんいることから、普段の様子やアンケートを参考にして選んでもらったよさが出ていると思います。天龍小学校は、他校に比べてかなり多くの新刊本を毎年購入することができています。また、バースデーブックを毎年プレゼントしてもらえなど、子どもたちが本に接する機会がたくさんありとてもありがたいです。学校図書館にどんな本が入っているのか興味のある方、読んでみたい方は、ぜひ、小学校へ足を運んでみてください。村の方ならいつでも大歓迎です。お待ちしております。

